

学校間の交流を生かした 授業展開の工夫

第5・6学年 国語科・書写の実践より

第5学年:「広がる、つながる、私たちの読書／千年の釘にいどむ」

「文字の組み立て方2 『道』」「硬筆の学習 文字の組み立て方 中と外」

第6学年:「私と本／森へ」

「文字の組み立て方と点画のつながり2『歴史』」「硬筆の学習 文字の組み立て方 中と外」

複式学級の課題

- ・ 多様な意見が出にくい。
- ・ 児童への新たな刺激が少ない。
- ・ 同じ学年同士での練り合い・高め合いが難しい。

デメリットを
克服するヒントは

いつも同じ相手だと
マンネリ化しやすい・・・

「学校間の交流」です！

日頃の授業に、他校の児童の意見や作品を取り入れる工夫を紹介します。



実践① 国語科における学校間の交流

① 児童の実態を踏まえる

- いつも読んでいる本のジャンルに偏りがある。
- 自分の考えを広げたり深めたりする機会や読書生活の幅を広げるきっかけが欲しい！

「学校間の交流」



5年生1名、6年生1名
計2名の複式学級での実践です。

学年	5 年
単元名	広がる、つながる、私たちの読書 千年の釘にいどむ
単元目標	○ 複数の本や文章を読んだ中から、薦め たい本を選ぶことができる。 ○ 本や文章を読んで考えたことを発表し 合い、 自分の考えを広げたり深めたり す ることができる。

学年を	6 年
単元名	私と本 森へ
単元目標	○ これまでの本との関わり方を振り返り、 発表し合うことで、 今後の読書生活の幅 を広げる ことができる。 ○ 自分の考えを明確に表現するため、語 句と語句の関係を理解し、文章全体の構 成と効果を考えることができる。

実践① 国語科における学校間の交流

② 計画を立てる。

○ 相手校や方法を決め、交流の効果的なタイミングを考える。

単元指導計画・5年			単元指導計画・6年		
次	学 習 内 容	時	次	学 習 内 容	時
一	○ これまでの読書生活を振り返り、薦めたい本について考える。 ○ 学習課題「本をすすめて、読書の新たなみりよくを見つけよう」を設定し、学習計画を立てる。 ○ 本を薦める方法を調べて、ノートにまとめたり、感想を発表したりする。	2	一	○ 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ○ 読書記録を読み返し、これまでにどんな本に出会ってきたかを振り返る。 ○ 自分と本の関わりについて考え、発表する。 ○ 「いちばん心に残っている本」について考える。	2
二	○ 誰かに薦めるという目的で、「千年の釘にいどむ」を読む。 ○ 「千年の釘にいどむ」の何をどのように伝えたいかや表現をどう工夫するかについて考え、引用する部分を考えたり、キャッチコピーを作ったりする。	2 構02	二	○ 「森へ」を読んで、作品のよさについて話し合うとともに、「いちばん心に残っている本」の紹介のしかたを学ぶ。	2
三	○ これまでに読んだ本や、新たに探した本から、「千年の釘にいどむ」に関わるお薦めの1冊を決め、どの方法でどのように伝えるかを考えて、作品を作る。 ○ 作った作品を紹介する。 ○ 学習を振り返る。	2	三	○ 「いちばん心に残っている本」について、文章にまとめる。 ○ まとめた文章をもとに、本との関わりについて伝え、5年生に伝える。 ○ 「施設を利用して、本の世界を広げよう」や「この本、読もう」を参考に、読書の幅を広げようとする。	2 構01

本時の展開

第5学年			第6学年		
○指導上の留意点 ◎要領	学習活動	時	学習活動	○指導上の留意点 ◎要領	
○ 本には、いろいろなジャンルがあることを知り、これからの読書の参考にする。	1 八八小6年生の「いちばん心に残っている本」を聞く。	5	1 八八小の友達「いちばん心に残っている本」を知る。	○ 八八小の友達と感想文を見せ合うことを伝え、集中して学習できるようにする。	
	2 プリント学習をする。	5	2 本時のめあてや学習の流れを確認する。 「いちばん心に残っている本」について、文章にまとめよう。		
	3 本時のめあてや学習の流れを確認する。 ○○(誰)にすすめる「千年の釘にいどむ」の□□(作品)を作ろう。	5	3 教科書の例を読み、文章構成について考える。	○ ICTを活用して、前時の学習内容を取り上げ、課題に取り組みやすくする。	
○ 教科書に線を引いてもよいことを伝える。 ◎ 「千年の釘にいどむ」の薦め方を考えている。	4 誰にどんなことを伝えたいのかを意識しながら、「千年の釘にいどむ」を読む。 (1) 誰に…友達、家族等 (2) 伝えたい内容 ・ 昔は読書が流行していたが、今は読書が流行していない。 ・ 自分が読みたい本は、 ・ 自分が読みたい本は、	20	4 「いちばん心に残っている本」について、文章にまとめる。 初め…心に残った理由 中…本のよさやみ力 ・ 内容・あらすじ ・ 本全体の感想 ・ 最も印象に残ったところと理由 結…本との関わり	○ 3種類のワークシートから選んで書く。 ○ 書けそうなところから書いてもよいことを伝える。 ○ 表現の工夫にも目を向けさせるようにする。 ◎ 自分と本の出会いや関わりについて、心に残った場面や、優れた表現を中心にして文章の構成を工夫して書いていく。	
○ 過去の作品や先生の作品を見せて、参考にさせる。 ◎ 引用する部分を見つけたり、キャッチコピーを作ったりしている。	5 自分の考えをまとめる。 (1) 引用したい部分 (2) キャッチコピー		5 感想文を5年生に紹介する。	○ 聞き手のことを考えた読み方ができるよう、意識させる。	
○ 引用文やキャッチコピーの理由も発表できるようにする。	6 出来上がった作品を、6年生に紹介する。	5	6 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。	○ よかったところを伝え、次時の活動の見通しをもたせる。	
○ よかったところを伝え、次時の活動の見通しをもたせる。	7 本時の学習を振り返り、次時の学習について知る。	5			

実践① 国語科における学校間の交流

③ 授業を実践する。

- **ねらいと教師の願い**に基づいた交流の実現を図る。

本学級の児童に
様々なジャンルの本を
紹介してほしい！

相手校でも取り組んでいる教材なので、
早目に学習活動や時期を確認しておく。

相手校(6年生：児童30名)に
「いちばん心に残った本」の
発表の動画を撮ってもらう

ピックアップした数名分を
授業の最初に視聴する



いろいろな本があるね。
選んだ理由も
友達それぞれだね。

読んだことが
ない本だけど、
おもしろそう！

児童の意欲の向上

実践② 書写における学校間の交流

① 他校と交流するメリットを考える。

5年生1名、6年生1名
計2名の複式学級での実践です。

学年	単 元 名
5年	○「文字の組み立て方2 『道』」 ○「硬筆の学習 文字の組み立て方 中と外」
6年	○「文字の組み立て方と点画のつながり2 『歴史』」 ○「硬筆の学習 文字の組み立て方 中と外」

同じ学年（同じ字）の作品があれば
児童自身が比較・検討しやすい。
同学年の児童との交流をさせたい！



「学校間の交流」

実践② 書写における学校間の交流

② 計画を立てる

- 相手校や方法を決め、交流の効果的なタイミングを考える。

相手校：複式学級（5年児童2名、6年児童3名）との交流。

まとめ書き(清書)の書写作品に対して、**互いに評価活動**を行う。

どちらの学校も同じ課題を共有しているので交流による効果の共有も期待できる。

本時の展開

	5年	6年
	○指導上の留意点 ◎評価	○指導上の留意点 ◎評価
	○ 毛筆の学習を生かせるよう助言する。	○ 毛筆の学習を生かせるよう助言する。
	・ 本時の目標を知る。	・ 本時の目標を知る。
	中と外の部分の組み立て方に気を付けて、硬筆でも字形を整えて書こう	
1 目標把握	○ 毛筆の動画を見ることで、筆使いや中と外の部分の組み立て方について思い出すようにする。 ◎ 「によう」と中の部分の組み立て方と筆使いに気を付けて書いてみるか。	○ 毛筆の動画を振り返り、筆ペンや硬筆で書く。 ・ 評価を行う。
2 試書	○ △△小学校の児童の作品を見て、良いところを見つけるようにする。	○ △△小学校の児童の作品を見て、良いところを見つけるようにする。
3 基準確認	○ 部首と筆順について考えながら書くように助言する。 ○ 中と外の部分の組み立て方について、文字と図を見ながら、基準を理解する。	○ 毛筆の動画を見ることで、筆使いや点画のつながり、中と外の部分の組み立て方について思い出すようにする。 ◎ 中と外の部分の組み立て方を理解しているか。 ○ 文字の中心に気を付けながら書くように助言する。
4 練習・日常化	○ 「かまえ」の漢字の字形の整え方については、6年生児童と学習する。 ◎ 中と外の部分の組み立て方に気を付けて書こうとしているか。	○ 5年生児童と学習を行うようにする。 ◎ 中と外の部分の組み立て方に気を付けて書こうとしているか。
5 まとめ	○ 教材文字だけでなく、教科書にある巻末字表を使っていろいろな中と外の組み立て方の文字を探して書く。 ◎ ほかの文字でも、文字の組み立て方に気を付けて書こうとしているか。	○ 教材文字だけでなく、教科書にある巻末字表を使っていろいろな中と外の組み立て方の文字を探して書く。 ◎ ほかの文字でも、文字の組み立て方に気を付けて、次の画へのつながりを意識して書こうとしているか。

実践② 書写における学校間の交流

③ 授業を実践する。

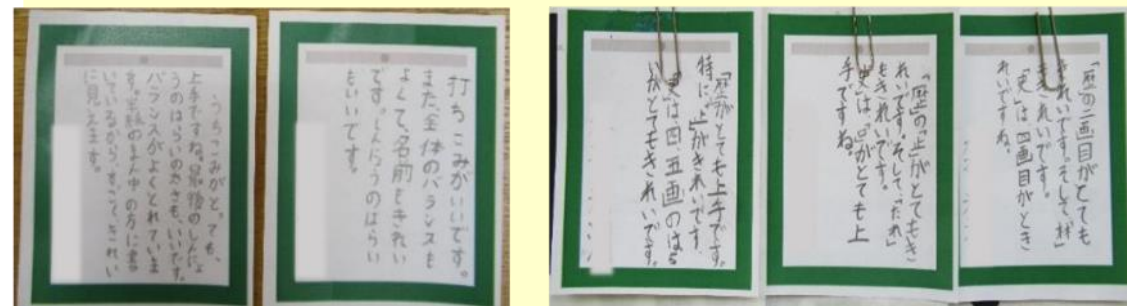
あらかじめ、自校と相手校の実施時期と、作品やコメントを交換する方法について確認しておく。

相手校の児童作品を見て、
評価活動を行う。



相手校の児童作品を見ることで、
同じ字で比較し、よさを見付けながら
字形の整え方について考えを深めた。

自分の作品に対する相手校の
児童からのコメントを読む。



自分の作品に対する感想から、
本時の意欲付けが図られるとともに
字形の整え方の再確認ができた。

複式学級での発表・表現の場

学校間の交流のメリット

相手校との事前の連絡や調整は必要だが、互いの学校の実態や課題、その改善策を共有するきっかけにもなる。

- より多くの児童から考えや感想を聞くことができる。
→ **多様な考えに触れる機会を保障**できる。
- 複式学級の構成人数に関わらず、同学年での学習が工夫できる。
→ **その学年としての広がりや深まり**が期待できる。